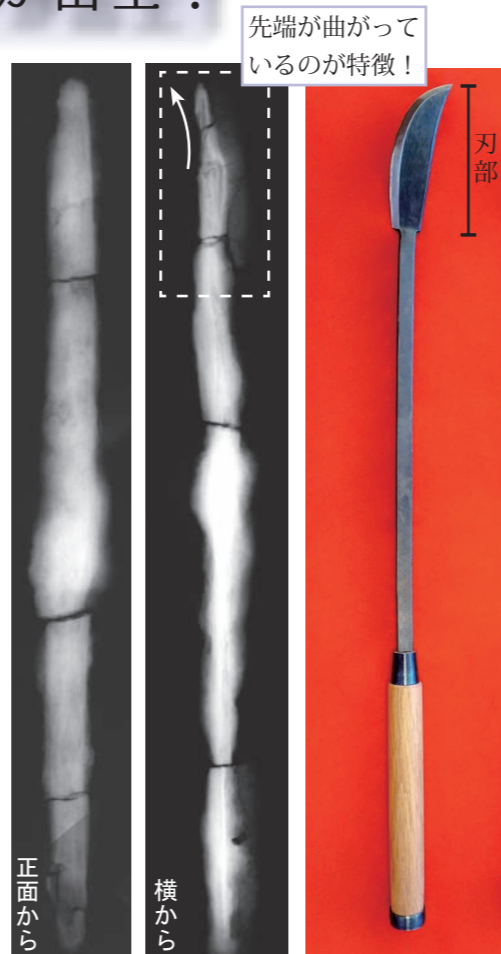


弥生～古墳時代のヤリガンナが出土！

昨年度（令和2年度）の発掘調査では、溝の中から弥生時代終末期～古墳時代前期（今から1700～1600年前）の土器と一緒に、全長23cmの細長い鉄器が見つかりました。見つかった当初は錆に覆われており、何の道具であるか分かりませんでした。そこで、X線レントゲン写真（右の白黒写真）を撮影したところ、**ヤリガンナ**であることが判明しました。

ヤリガンナとは、**木材の表面を削ったり、加工をしたりする木工具**の一つです。刃のついた先端が湾曲しているのが特徴です。室町時代（15世紀）に現在でも用いられているカンナ（台鉋）が普及するまで使用されていました。



古代のヤリガンナの復元（参考資料）
（MAQ設計事務所HPより）

図3 溝から見つかった鉄製のヤリガンナ

まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代～古墳時代にかけての竪穴建物跡を中心に多くの遺構が見つかりました。そのため、このあたりは**当時集落（ムラ）が営まれていた**と考えられます。加えて、この集落に係る溝から、鉄製のヤリガンナが見つかることも大きな成果といえるでしょう。

また、それから600年後の平安時代には、再びこの地で人々が生活していることが判明しました。

発掘調査によって、上戸田の地では古くから人々が連続と生活していたことが分かり、郷土の歴史を知るうえで貴重な成果を得たと言えるでしょう。



図4 南から上戸田と津万平野を望む

かみとだ 上戸田遺跡 発掘調査説明会資料

令和3年9月26日（日）

兵庫県教育委員会
（公財）兵庫県まちづくり技術センター



- ☆ 弥生時代～古墳時代にかけての竪穴建物跡が6棟見つかりました！
- ☆ 昭和56年に発掘調査された竪穴建物跡を40年ぶりに再発掘！
- ☆ 令和2年度調査で見つかった弥生時代～古墳時代の鉄器がヤリガンナであることが判明！

はじめに

西脇市上戸田に所在する上戸田遺跡は、一般国道175号西脇北バイパスの建設に先立ち、令和元年度より発掘調査を行ってきました。

上戸田遺跡は、一級河川の加古川と、独立山の八日山に挟まれた自然堤防上に立地しています。かつては、ほ場整備に伴う発掘調査が昭和56年に西脇市教育委員会によって行われ、弥生時代終末期～古墳時代前期（今から1700～1600年前）の竪穴建物跡が見つかりました。

今回の調査では、この昭和56年度の調査で見つかった竪穴建物跡を40年ぶりに再発掘した他、新たにその周辺から同様の時期の建物跡などの生活の痕跡が数多く見つかりました。そのため、調査現場を一般公開したいと思います。

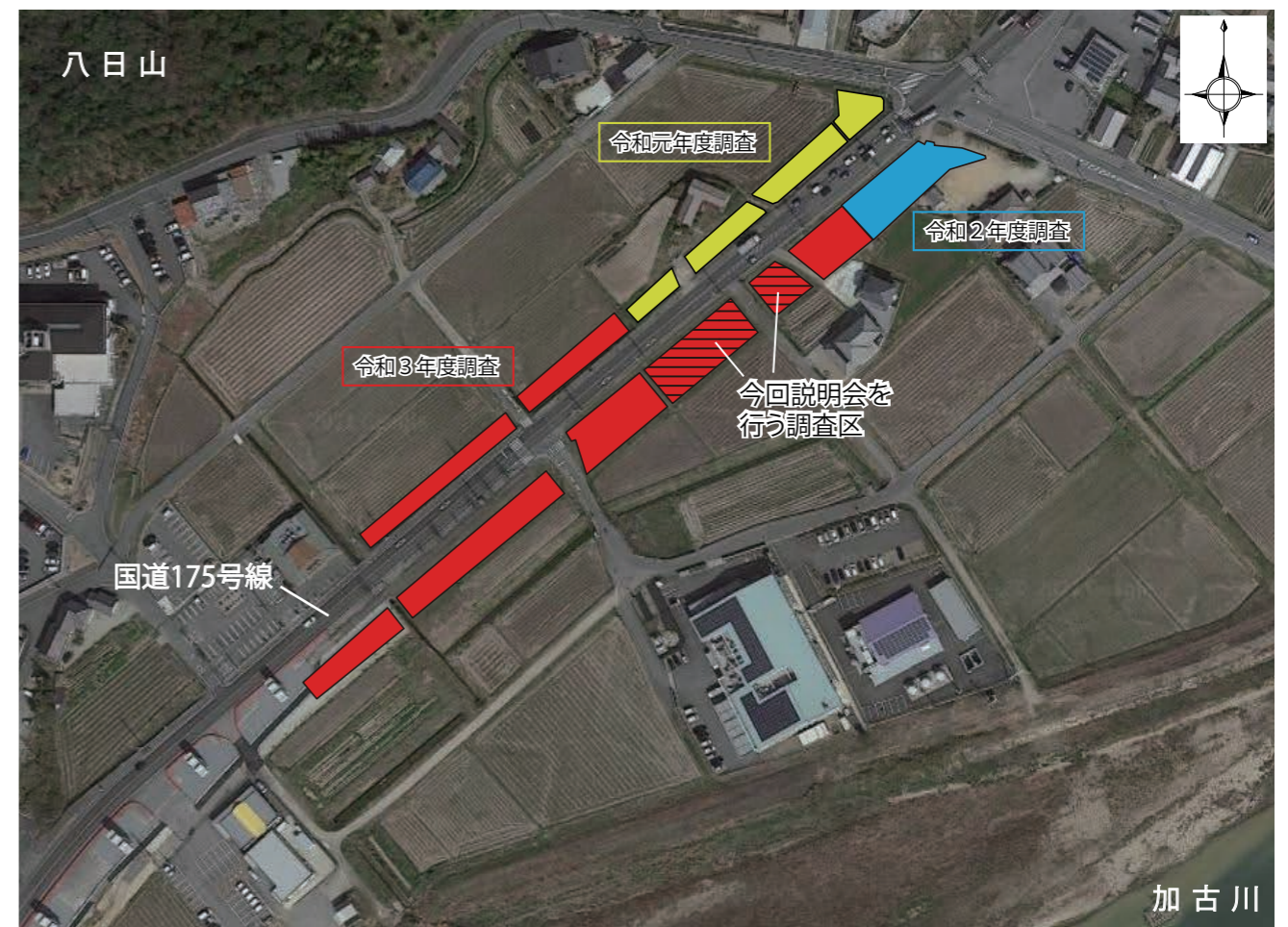


図1 調査の位置

今年度の調査成果

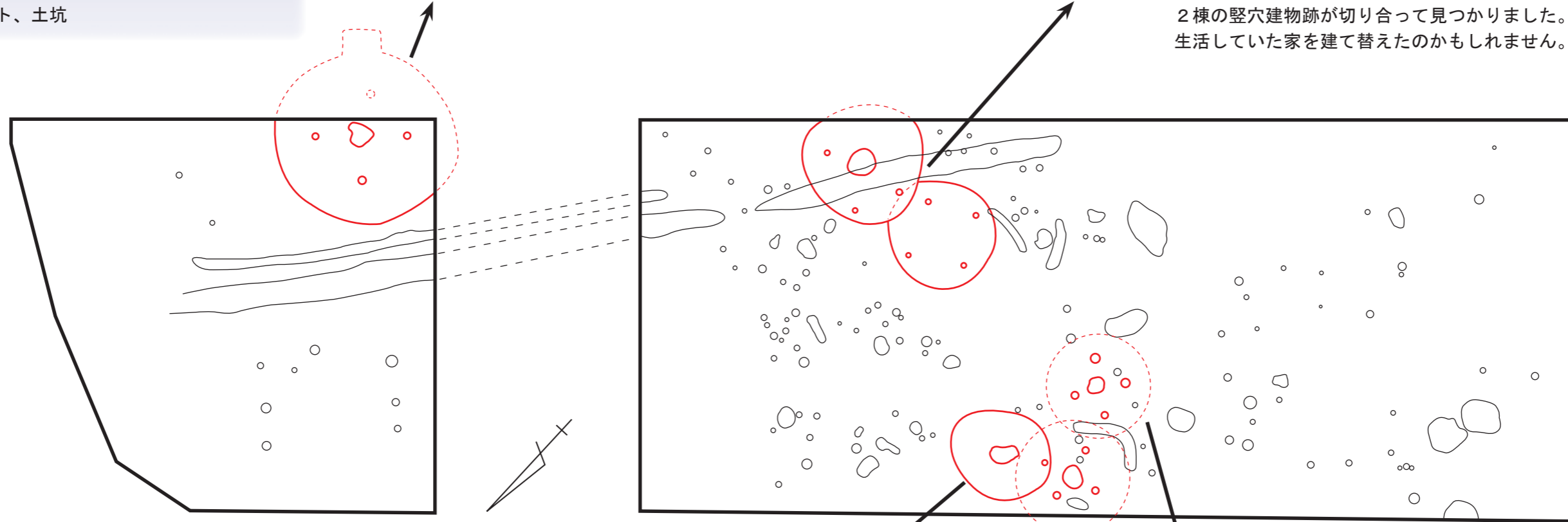
今回の発掘調査成果（9月26日現在）

- ① 弥生時代終末期～古墳時代前期
（今から1700～1600年前）
■ 竪穴建物跡6棟、ピット（小さな人工的な穴）、土坑（大きな人工的な穴）
- ② 中世（平安時代～鎌倉時代）
溝、ピット、土坑



← 40年ぶりに再発掘された竪穴建物跡です。屋根を支えていた柱の跡や、中央の土坑（穴）がはっきりと残っています。

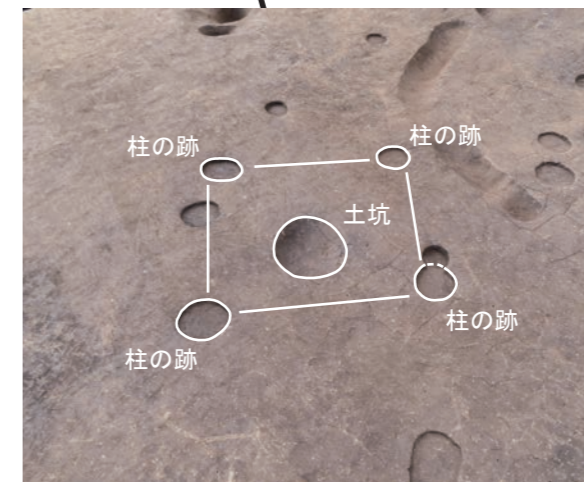
2棟の竪穴建物跡が切り合っていました。生活していた家を建て替えたのかもしれませんが。



昭和56年に西脇市教育委員会によって調査された竪穴建物跡
（西脇市教育委員会編 2006『西脇市集落遺跡調査集報Ⅰ』より引用）



← 直径4.5mの小さな円形の竪穴建物跡です。後世に削られて殆ど残っていませんでした。



← 後世に削られてよく残っていない場合は、柱の跡や土坑（調理や暖をとるための穴）の配置から建物を復元することができる場合があります。